

四季報 春号

第二百一十一号 (No.121)

# 芹沢文学研究会・会報

令和4(2022)年4月28日(木)刊行

良識の

文学読書…

世の中は  
コロナウィルス  
ウクライナ戦禍

松林庵主人

芹沢光治良先生が、平成5(1988)年3月23日に逝去されて、今年30回忌になります。地元の沼津芹沢文学愛好会(不破久温代表の主催で「光治良忌」が行われました。ウィルス禍で、感染予防のために、墓前の集会や会食は止め、日にも3月12日(土)の午前11時〜午後1時に、沼津市営墓地の芹沢家墓地で各人が随時に献花することで行われたようです。孫の岡寿里様、不破久温氏など会員・市民約50名が墓参献花しました。同封資料③の沼津朝日や静岡新聞の記事を御覧下さい。

## 企画展 『人間の運命』とその時代 沼津市芹沢光治良記念館

沼津市芹沢光治良記念館で企画展『人間の運命』とその時代(第2回)が、12月15日〜令和4年5月31日に行われています。展示の『図録』、戦中・戦後時代年表、小冊子『死者との対話』『私の憲法観』が刊行されています。『人間の運命』第2部・第3部、『遠くかつた明日』、新聞記事・コラム、ハガキ、中国取材日記、戦中日記、疎開日誌、世界ペン大会の挨拶文、渡欧日記、写真も。

企画展『図録』(第2回)

## ★芹沢光治良文学愛好会の例会 第522回 4月17日

芹沢光治良文学愛好会が再開され、第522回の例会が4月17日(日)に三鷹市の市民協働センター 第2会議室(2F)で行われました。テキストは短編小説「非現象の世界」(昭和31年4月雑誌知性発表。同48年2月10日新潮社発行『忘れがたき日々』収録)で、司会は豊田英文さんでした。新型コロナウィルスが中々収束しませんが、今後も尽力して継続して行つて下さい。

同封資料の「東大キリスト教青年会と芹沢光治良について」では、芹沢光治良先生が、東大キリスト教青年会に入っていたと徳久俊彦氏が野沢朝子様に連絡して来たとのこと。大正8年9月に東大経済学部に入學して、麻布区広尾の石丸助三郎氏邸の離れに下宿しましたから、台町会館には寄宿はしていません。一高の親友でキリスト教信者もあり、プロテスタントには触れていました。東大キリスト教青年会に入会してどのように学んでいたかの研究は、今後にすべきです。フランスに留学して深く知ったのはカトリックです。

## ☆中野区立中野東図書館 芹沢光治良展示室が開館

中野区立中野東図書館が開館「中野区中央1丁目41番2号。☎03(5937)3559」し、芹沢光治良の展示室に資料、年表、全集、代表作等が展示されているようです。芹沢光治良文学愛好会から4月資料として、カラー写真コピーで紹介されている資料をお送りいただきました。詳細が不明ですが、中野区に行く機会がありましたら、中野東図書館を訪ねて芹沢光治良の展示室を御覧下さい。

中野東図書館

芹沢光治良展示室

◎同封資料／①『岡玲子さまを偲ぶ』野乃宮紀子 ②三行句集『渾作文学の読書会』小串信正  
以上二『無人塔』No.44 むじんとこの会 2022年2月20日発行 ③新聞記事『芹沢を偲ぶ 光治良君』

『芹沢光治良30回忌で暮る』沼津朝日、『芹沢光治良功績しのぶ』静岡新聞『賞賛撰』芹沢光治良記念館  
④文学評論『芹沢文学講話』『芹沢光治良と加賀之彦』上河小説派の作家Ⅱ 岩谷幸栄 小串信正

連載 倉庫便り No.79

第9回の倉庫の便りとして掲載

芹沢先生の存命中に会いに行かなかった

妻都大田区田園調布 金子守宏

コロナが続いていますが、お元気でしょうか。  
昨年、倉庫の整理をしていたところ引越しの時になくしたとばかり思っていた本が沢山でてきました。その中に芹沢文学も多数あり、休日に読み返しています。最近まではコロナのために出かけない日が多く、読書時間も取れていたのですが、世情が軽症コロナとなり講演依頼が戻ってきて忙殺されつつあります。

ところで、当初のコロナは「湿（人体に害を及ぼす余分な水分）」が絡んでいて、これを取り除かないと解熱しない状態で漢方の「五苓散」などを併用しないとイケませんでした。ちなみに五苓散は吐き下し風邪によく使われます。この「湿」によって重症化する人が沢山いましたが、オミクロン株になってからは「湿」がなくなり普通の解熱剤で十分対応できるようになっています。風邪の症状が出たらすぐに普通の風邪薬を服用して炎症を抑えてやれば寛解しますので安心してください。

閑話休題

『人間の運命』を読み終わった頃の感動がよみがえります。私は芹沢先生の存命中に会いに行かなかった自分を悔いています。会いたいと思いつつも、芹沢文学に出てくる人物はエリートばかりなので自分如きはお会いする資格がないと決めつけ、自分をもっと高めてからにしようといふ何年も先延ばしにしてしまったのです。芹沢先生が訪ねてくる全員に分け隔てなく会っていたことを後に私は知りました。

実習に来る学生には、後悔を含んだ一つの参考としてこの話を聞かせています。何かしようと思ったら待ってはだめです。「何を待つのですか？」後回しにする理由を探してはいけません。したいと思ったらすぐに行動に移さないと私のようになる、と。コロナ禍が続きます、御自愛下さい。

◎同人誌「無人塔」(No.44) 2022年2月20日 むじんとこの会 発行

甲府市飯田の宮澤健太郎氏(むじんとこの会)が発行している同人誌「無人塔」のNo.44(第44号)が、2月20日に刊行されました。詩、エッセイ、小説等が寄稿されています。この同人渡部芳紀先生、野乃宮紀子さん、小串信正は、芹沢文学の研究者でもあります。小串信正は、『三行句序論』俳句・川柳の変革」と三行句集『渾作文学の読書会』を寄稿しています。野乃宮紀子さんは「クロアゲハ」「岡玲子さまを偲ぶ」を、渡部芳紀先生は「ある健康オタクのその後(六)」を寄稿しています。

このうち、野乃宮紀子さんの『岡玲子さまを偲ぶ』は、今年の六月六日に急逝された作家・芹沢光治良先生の四女・岡玲子さまへの追悼文で、芹沢光治良記念文化財団の財団ニュースに寄せたものを転載したものです。小串信正の三行句集『渾作文学の読書会』は、芹沢文学読書会と野上文学読書会の会報の巻頭に収録した三行句(六十四句)で芹沢文学と関係がありますので、この二つを今回の同封資料として提供します。御一読いただければ幸いに存じます。

★**今年度の年会費が未納入の方、年会費の納入をお願いします。** \*同封の払込取扱票にて納入して下さい。

今年度も**年会費を1800円に据置きます。** 同封の郵便振替にて年会費の納入をお願いいたします。自主的な寄付も受入れます。どうか、よろしくお願ひします。

▽**新入会員の紹介** 平成30年8月以後の入会者は無し。御紹介下さい。 ♡ ♡ ♡

☆ **編集後記** ☆..... 編集責任 小串信正.....

会報第1211(春)号と同封資料をお届けいたします。新型コロナウイルスのオミクロン株がBA・2に変異して世界で流行しています。日本でも、第6波が収束しない内に、第7波が始まっています。罹らないように御自愛下さい。

コロナ禍の中、大変なことが始められました。ロシアの独裁者プーチンが弱小の隣国ウクライナを侵略しているのです。こんな戦争が21世紀に起こるのは驚きです。ロシアはクリミア半島を占領し、ウクライナ全部を支配しようとして首都のキーウ(キエフ)を攻略しようとして反撃され、失敗しました。東部二州と南部だけはと攻撃しています。ロシア軍は各地の民家や一般ビルも破壊し、民間人女性や子供までも虐殺しています。ウクライナのゼレンスキー大統領と軍隊、国民が結束して反攻しています。プーチンやロシア軍は限界に来ています。ロシア軍をウクライナから追い出してしまえ!!と言いたいのですが、戦争が長引けば犠牲者も膨大なることを憂えます。「世界に平和を」と祈ります。